



114
A1033

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



一 今般演地附留貿易商社出資件諸君社中

合係に任出資諸君と諸君留貿易に二字の指

定しおれは此是進法も今も亦おれは此のるも是

遠大ノ見識あり

唯 洋酒等之に之門を慕うて東京を商

るものと眼目とありきとてゆへ方今外國貿易

之際おしめては使行所三事ありては

内書買不融通ヲ辭シ外不^正理留貿易ヲ成之

高橋盛久を如く事にして有るもの也 中三

是より心附高橋政忠と心附るもの也 年東

深きところを同知る谷易と云くころきく

殊に也仲らるるもの多し 昔

同族と固まる人 世用る

是らるるは堅意の人 世時務

是らるる行は死もの 今

感ん か

雅歌 と

睡 を

子 ハ

意 と

さうして商人の勢力を合併して大商と成さるゝのが
為に留島商社に許容の如くさういふ事は
加白色の後の経過の如くおれたいと云ふのは商人
同士の力と云ふのも大感大と云ふ事だ
我々西洋も商人の自公の多き地産の僻地だ
人氏の自公の思ふは周知の下衆庶民を合せ

経済をいふ事だ
さうして世界万国の
方々我日のちのちには海軍の國
威を輝かせる事十分の進歩を海軍も人等
と云ふ事だ
自公の自公
及しての事
機嫌は皆さういふ事だ

勢いなる富とちすく何れは彼等も富も
何れも人か何れも富も世界一彼のた徳也
も其大富となりすか人の小利と思ふに
入るて智力を失ふ候もたは、賤貧各自
信と去りし十日十括、三年と云くとも業を
遊るのたは世界万の横に、大高大富を

るる中て別は不思議の事も、何れは我

國存亡の事多し

天竺古神の所、土肥沃く、四季も

寒も暖程、諸物を産出多し、何れ
不毛の地も、何れも極く、人言は地は情よ
り、他と云願他人、他我が家と各

道にても人にも人かへ高力にて女の
換色してもあぢは家病と夫かををうといも
る人かへもあぢ換ては及かといも
各が病と夫かををうといも
別〜人の思〜は我を病〜補ひ我思
さる人かを病〜補ひと法〜はあぢ〜

賤命と基はる也

天候を神の清来〜遠き思か〜と〜も業と
〜あ〜思〜は〜西洋も人〜對の
大高と女〜思〜は〜思惟
か〜思〜は〜思惟
天候の難は思惟とを〜思〜は〜思惟と

——各非常——南洋——東京のもの
東京と南洋——
別——大差——他——大幸——
——同業——以——
——他——
——

——他——
——
——
——
——
——
——
——
——
——
——

事



